

令和5年度2学期終業式 式辞

おはようございます。校長の川崎芳徳です。

2学期の最終日にあたり、一言ごあいさつを述べさせていただきます。

6年次の皆さんにとりましては、「終業式」は、これで最後になりますね。さて、どんな2学期だったでしょうか？どんな一年だったでしょうか？

体育大会、研修旅行、わくわくオーケストラ、トライやるウィーク、ピッコロわくわくステージ、スポーツ大会などの学校行事、また、LGBTQや薬物乱用防止について学んだり、地域貢献活動として学校周辺の掃除にも取り組みましたね。部活動や、部活動以外でも、先ほどの表彰式のとおり多方面で素晴らしい活躍が見られました。

私は、皆さんが、目を輝かせて、自分らしさを発揮しながら躍動している姿から、いつも大きなエネルギーをもらっています。皆さんの活躍は、校長として誇らしい限りです。

また、生徒会執行部の皆さんのリードで、夏に続いて、私服での登下校が可能な期間も設けていただきました。変化の激しい世の中にあって、自ら考え行動を選択していく力を身につけていくことが求められている今、これからも、学校の「校則」等に対して「自分の考え」を持ち、疑問に感じたときには、生徒会執行部をリーダーとして改革していくエネルギーを持ち続けてほしいと強く思っています。

「なぜ？」「なぜ？」という気持ちを大切に、在学中に、「他人の保護や干渉を受けず自ら決定し実行する“自主”」、「自分のこと、自分たちのことを自分自身で処理し治める“自治”」という精神を、しっかり身につけてください。

芦国は、校長先生の学校ではありません。皆さんの学校、皆さんの母校となる学校なのです。「自分たちでデザインしていくんだ」という強い気持ち、エネルギーを持ってください。その気持ち、エネルギー、取り組みこそが、この予測困難で先行き不透明な世の中にあっても、難局を突破し心豊かにたくましく生き抜いていく力の獲得につなげていくのです。

「なぜ？」と疑問に思う、“疑う力”は、フェイクも含め、様々な情報が溢れている今、これこそが、重要な“創造力”と言えるのです。この創造力である疑う力、「なぜ？」を大切に、その疑問、課題を自身でクリアにしていく中で、身体の中に、強固でかつ柔軟な判断力をともなった実行力を確立してほしいと願っています。

そして、実行していくとき、「どうせ無理」「どうせ変わらない」という考え方は、絶対に持たないでください。

「ノミの法則」というお話をご存じでしょうか。犬や猫にも寄生するノミです。すごいジャンプ力を持っています。体長は2～3mm程度で羽もありません

が、この絵のとおり後ろ足が発達していて、体長の約100～150倍もジャンプできると言われています。身長170cmの人に例えると、 $170\text{ cm} \times 150 = 255\text{ m}$ の高さまでジャンプするということになります。神戸ポートタワーが108mですので、その倍以上の高さです。

この跳躍力に優れたノミをガラスコップに入れて透明の蓋をかぶせます。ノミは、コップから逃げ出そうと何度も何度も飛び上がり、透明の蓋にぶつかります。しかし、そのまま放っておくと透明の蓋ギリギリのところまでしか飛ばなくなってしまうそうです。ノミが学習したのですね。

注目すべきはここからです。何と、その透明の蓋を外しても、コップの高さよりも高く飛ぶことができなくなっているのです。

では、このコップの中のノミに、本来持っているジャンプ力を再び発揮させるにはどうすればいいのでしょうか…実に簡単…別のノミを連れてきて、同じコップの中に一緒に入れるのです。蓋は外されていますから、後から入れたノミは大ジャンプです。それを見た、蓋の高さまでしか飛べなくなっていたノミも自分の姿を取り戻し、やがて大ジャンプができるようになるということです。

皆さん、「どうせ無理、どうせ変わらない、これ以上は無理」と、自分で自分の能力や可能性、クラス、部活動、学校など、自分が所属する大切な組織の成長に蓋をしてしまっているようなことはないでしょうか。また、どこかで誰かに決められたこと…この蓋を疑いもせず、ただ守っているだけではないでしょうか。

新型コロナウイルス、戦争、紛争、自然災害など、対応マニュアルのない、誰も経験したことのない状況が突然に起こる現代、自らが状況を把握し、判断し、適切な行動を選択してたくましく生き抜いていける力の獲得が強く求められているのです。

まずは蓋に気づき、その蓋を突破！突破！の精神、高い「志」を持って突き進んでください。願った方向、強く意識した方向へ、全細胞は突き進んでいくのです。本気の願いは叶うのです。

プロ野球、それも世界最高峰のアメリカ大リーグにおいて、「ピッチャーはピッチャーに専念するもの」「バッターはバッターに専念するもの」…でなければ絶対に成功しない、もちろん、「ピッチャーが盗塁なんかあり得ない」…この大きな野球界の常識、蓋を突き破ったのが大谷翔平選手でしたね。

世界中の人々が大谷選手の生き様から多くを学び取ろうとしている今、大谷選手を生んだ日本に住む私たちこそ、他国の人たちよりも多くを学び取らなければならないのではと思っています。

最後に6年次の皆さん、今、多くのことを我慢して、日々努力を続けていることと思います。このストレスは、皆さんの総合的人間力を飛躍的に高めています。

そして今の挑戦は、“個人戦”に見えて、実は“団体戦”です。空気・雰囲気、勢いを大切に、皆で良い環境を創り上げ、互いにエネルギー、パワー、元気を供給しあいながら、全員、望む結果が得られるよう突き進んでいってください。最後の最後まで応援しています。一人ではありません。

今日は、この後、生活支援部長の山下先生から、芦国のさらなる発展、皆さんの大きな成長を期待し、学校生活に関する大切なお話をさせていただくことになっています。しっかり聴いてくださいね。

それでは、クリスマス、お正月と、楽しい時間も待っています。健康には気をつけ、何より大切な「命」に感謝しながら、令和6年、辰年、昇り龍!“飛躍と向上”の年へ向かってください!

1月9日、元気な皆さんの笑顔と再会できますことを心から楽しみにしまして、令和5年度2学期終業式の「式辞」とします。

今年一年、本当によく頑張りましたね。どうぞ良いお年を♪

令和5年12月22日

兵庫県立芦屋国際中等教育学校長 川崎 芳徳